

出会った人々 IV

5月14日 火曜 天気晴れ

「大連日記から その20」で取り上げた卒業独唱会二日目の日、その会の後、また中国語の家庭教師役をつとめていた李さんと図書館前で会う約束をしていた。図書館前には小さな広場にベンチがあり、私はここで李さんを待ったが約束の時間に一向に彼女が現れない。手持無沙汰にしていると、同じベンチに西洋人風の容貌の学生さんが座って来た。そこで話しかけてみることにした。どこの国からいらしたのですかと。その女学生を留学生と思っていた私は、英語で話しかけてみた。しかし彼女は、この国の人間だと言う。一体何を言われたのか、そのままでは理解できなかった。

英語は不得手なのか、直ぐにやって来た友人に通訳を求めた。わかったことは、二人が確かに中国の人間で、欧米からの留学生ではないということ。それでは、と言うと、はるか西方の新疆ウイグル自治区出身のウイグル族などだそう。名前を聞くと麦麗開(マリカイ)と古麗芭哈吾(グリバハア)という名だと語った。二人は同郷で、大の仲良し。その後も何度かキャンパスでお見受けしたが、いつも一緒に、しかも笑顔を絶やさなかった。

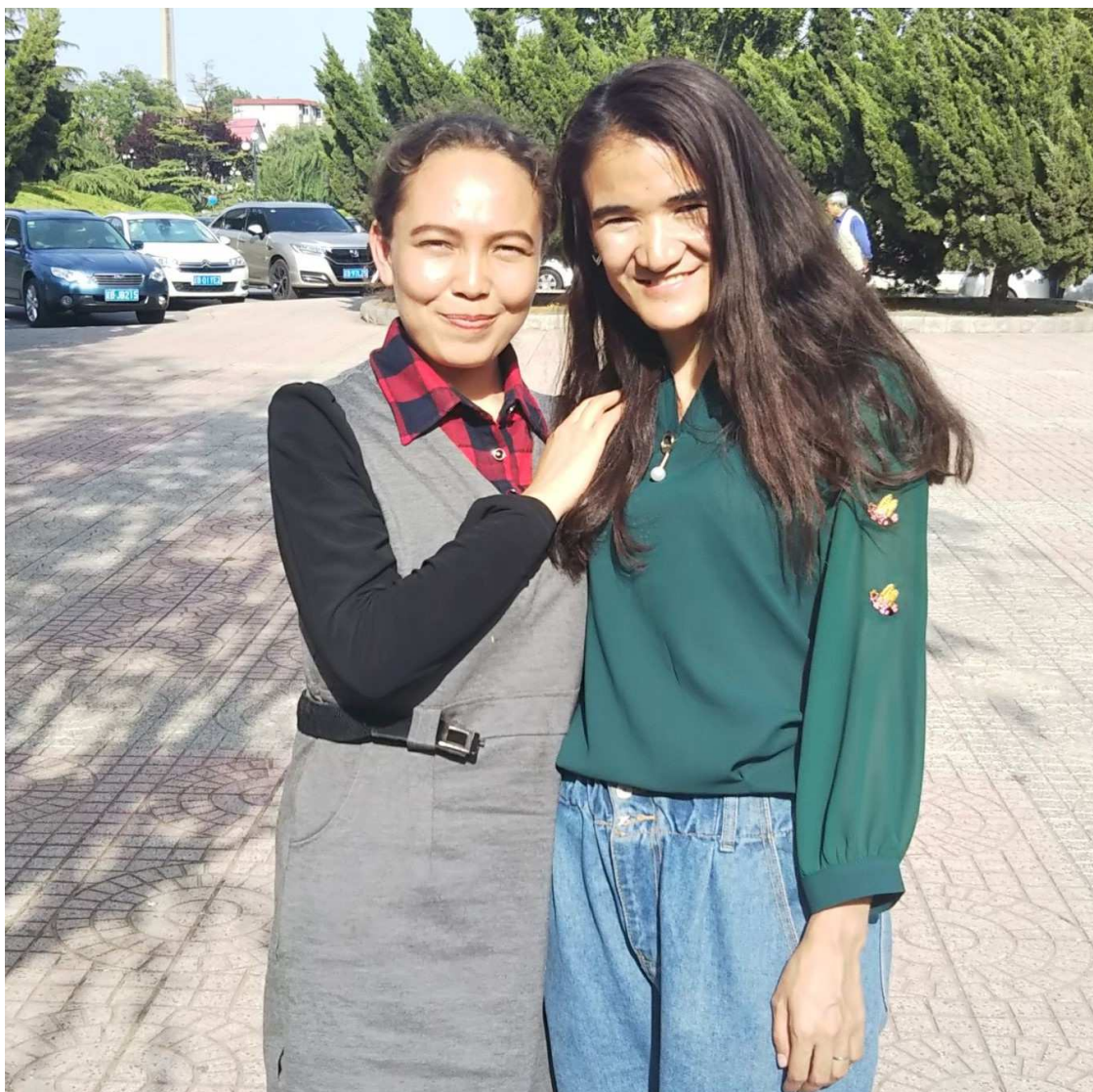
この日は間もなく李さんが現れたので、お別れした。ところが、翌日偶然、例の蘭州拉麺の店でチャーハンを食べていると、見覚えのある女性が現れた。昨日のグリバハアだった。そこでテーブルを挟んで、いろいろと話が弾んだ。グリバハアが英語を理解するのは、なんでも漢民族の彼氏がこの大連にいて、その彼が英語学校を経営している人物なので英語に接する機会があったのだとか。そう言ってスマートフォンを取り出して、その彼氏とやりに電話を入れる。出てきた相手と私が話すことになった。確かに英語が堪能な様子。しかし仕事上の電話だったので、間もなく切った。マリカイとグリバハアの出身地は、新疆ウイグル自治区でもさらに辺境のイリ地方だとか。地図で見ると、直ぐ西方に旧ソ連中央アジアのカザフスタン共和国が迫る国境地帯だ。地球上で最も海から離れた地だと聞いているが、標高はさほど高くなく気候温暖なので、柑橘系などの果物には事欠かない土地だとか。グリバハアからは、是非私たちの故郷、イリへ来てくださいと言われた。

実際のところどうなのだろう。今、習近平体制の中国では、中華民族の覇権を思わせる動きが続いている。これまで以上に少数民族に中国文化への同調圧力が強まっていると聞く。なかでもイスラム教徒で西方の文明とも交流して来たウイグル人は、漢民族の文化と相いれないし勿論中国の政治体制とも相克がある。情報が統制されて真相は不明だが、中国に忠誠を誓わないウイグル人を

強制的に民族として中国の体制に従わせるために、収容機関に拘束していると国際社会から批判が出ている。

こういう事情の真偽を聞いて見たかったが、やはり控えておこうと思った。二人の明るさからは、ウイグル人の立場にも様々あるかもしれないと思われた。ましてやグリバハアの恋人は漢民族の中国人だと言う。ある意味で公安から監視されている私が、中国批判を公にすることがあれば、留学を途中で断念させられるかもしれないと、それ位神経質でいたほうが良いと思ったのだ。この地では政治に首を突っ込まない方が良いと判断していた。

二人は四年生だったが、卒業後イリに帰るとは聞いていなかった。今頃、どこでどうしているだろうか？



図書館前で出会った時にとった二人の写真 左がマリカイ、右がグリバハア